

留学へ行こう

摂食嚥下リハビリテーション学分野 吉 原 翠

2023年4月より日本学術振興会の海外特別研究員として、Johns Hopkins Universityに留学する機会を頂きましたのでご報告いたします。Johns Hopkins Universityはアメリカ東海岸のメリーランド州ボルチモアに位置する私立大学で、医学・公衆衛生学の分野でよく知られています。Covid-19に関する報道で名前を目にした方も多いのではないのでしょうか。私は大学内の研究機関の一つであるasthma and allergy centerに所属し、Brendan Canning教授の教室で研究に従事しています。Canning研究室は咳反射のメカニズム解明を主なテーマとしており、最近では気管から放出される咳関連メディエーターや、咳と神経学的に関わりの深い嚥下機能の生理学的研究を行っています。留学前に嚥下の研究をしていたこともあり、現在私は食道刺激誘発性嚥下と食道から放出されるメディエーターの一つであるATPの関連に着目し、in vivoおよびex vivoの実験をしています。留学当初は教授とのコミュニケーションにも苦労しましたが、生活・研究ともに奮闘しながら充実した日々を過ごしています。

現在、同センターに在籍する日本人は私一人ですが、Johns Hopkinsの他キャンパスや隣接するNIH（アメリカ国立衛生研究所）には日本人も多く在籍しています。渡米して得られた経験の一つは新潟では出会えなかった人と親しくなれることでした。圧倒的なマイノリティであるという共通点のもとに日本人同士、また、アジア人同士で連帯しやすいのです。日本ではあまり起きないあ

らゆる面倒事（事務手続きから犯罪まで）を、「This is America.」と笑い飛ばす先達の様子にはいつも勇気づけられます。日本を離れ、自分自身の見識を広げる機会を得られたことは私にとってこれ以上ないほどの幸運です。留学先で得た経験をもとに、歯科医師として臨床に還元できる研究を行えるよう、今後も精進していく所存です。最後になりますが、このような貴重な機会をくださった井上誠教授および辻村恭憲先生に心より感謝申し上げます。また、留学に際し多大なご迷惑をおかけしているにもかかわらず、温かい励ましとご支援をくださっている真柄仁先生、伊藤加代子先生、小貫和佳奈先生、笹杏奈先生をはじめ医局の皆様にも、この場を借りて深く御礼申し上げます。



asthma and allergy centerにてラボメンバーと
左：Brendan Canning教授、中央：筆者